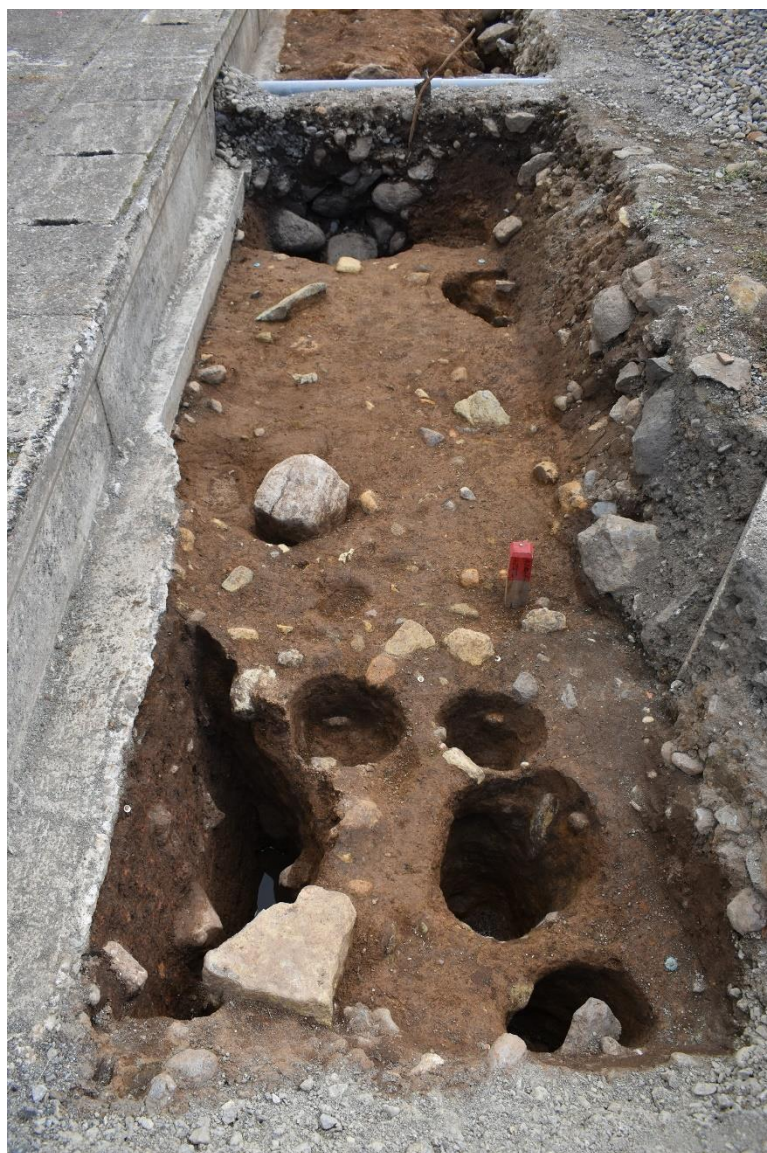


令和元年度（2019）

# 史跡白山平泉寺旧境内 発掘調査 現地説明会



井戸と柱穴を掘り終わったところ（1区北端）

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

【史跡白山平泉寺旧境内と発掘調査の概要】

平泉寺は、今から 1300 年近く前、泰澄によって開かれたと伝えられます。中世には、北陸でも有数の勢力を有するようになり、現在の白山神社よりもはるかに広大な境内に、数十の堂や社、数千に及ぶ坊院が建ち並んでいたといわれます。ところが、天正 2 年（1574）、一向宗徒との戦いで全山が焼失し、往時の姿を伝えるものはほとんど失われてしまいました。

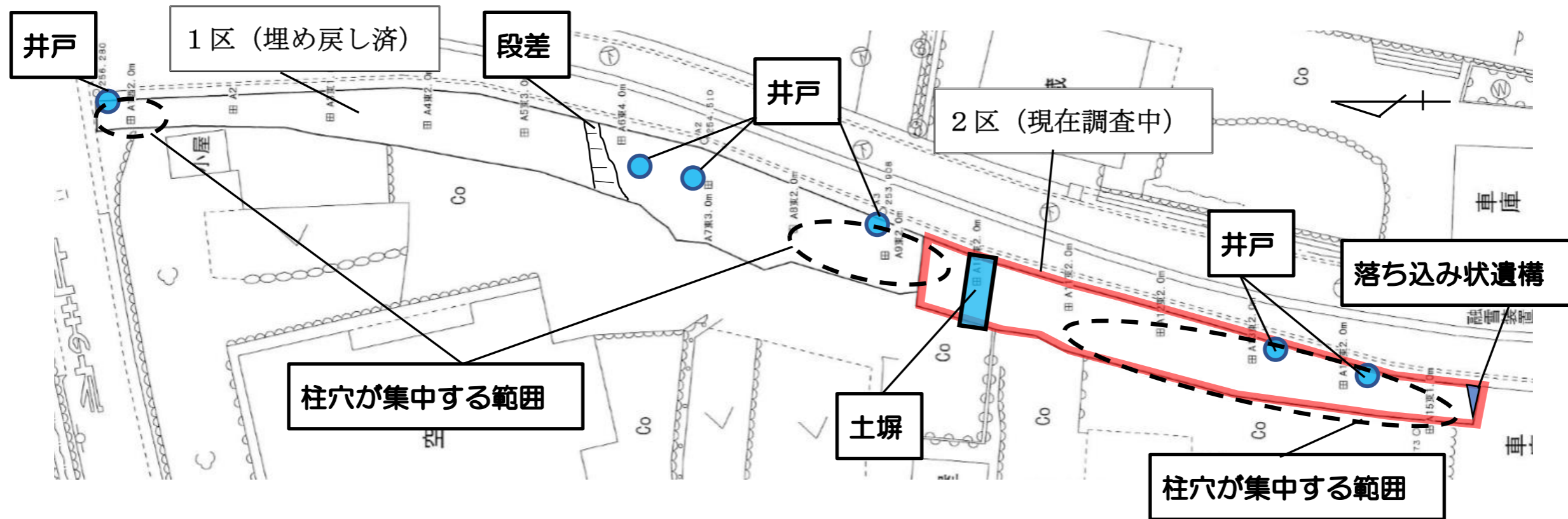
しかし、近年にいたり旧平泉寺境内の発掘調査が行われ、かつての境内の遺構が見事に残っていることが判明しました。（勝山市 1994 『よみがえる平泉寺から中世宗教都市の発掘〜』を引用）

今回は、福井県奥越土木事務所による一般県道平泉寺大渡線道路改良工事の事前調査として発掘調査を実施し、1区はすでに調査終了後埋め戻しを行い、現在は2区を調査しています。



【今回の発掘で確認できた、鎌倉時代～室町時代の遺構の位置】

発掘調査位置図

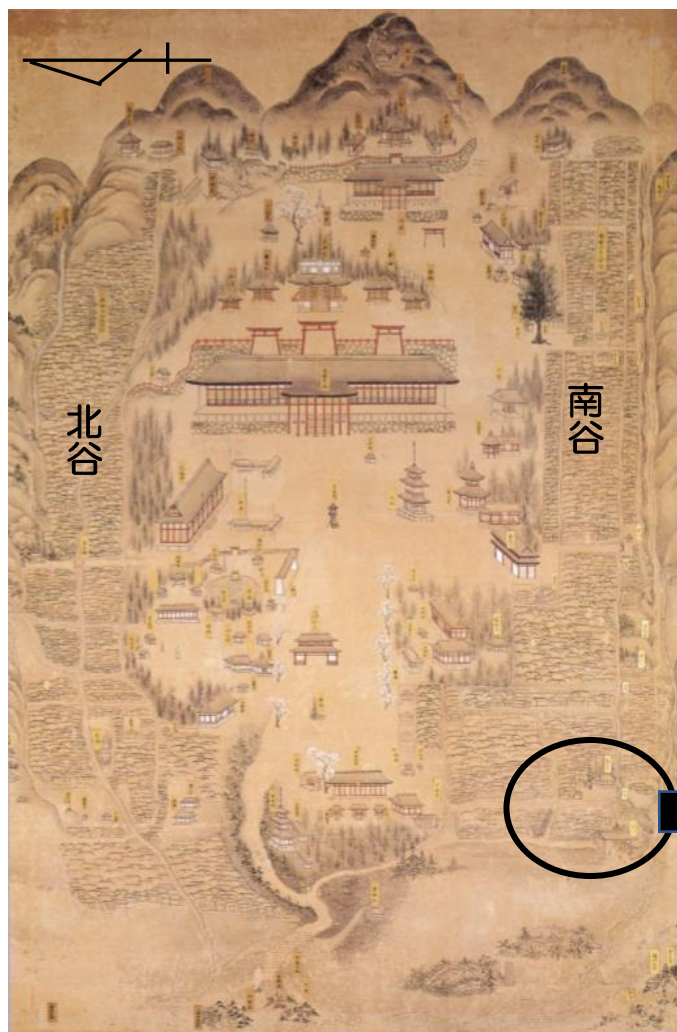


### 【発掘調査の成果】

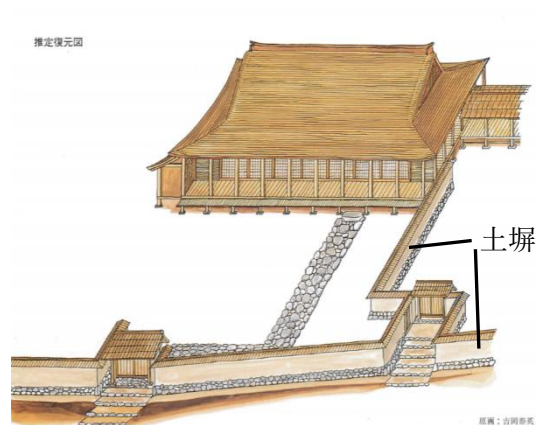
○白山平泉寺旧境内は「四十八社三十六坊六千坊」と称され、『平泉寺境内絵図』にあるように、中世の時期において、境内の中は多くの坊院で密集していたと考えられていました。今回の調査地は、境内の南西端にあたり、境内の内側と外側を画する「構口門」や大きな堀がすぐ近くにありま

す。○発掘調査の結果、坊院を画する土塀や生活するために必要な井戸、掘立柱建物の多くの柱穴など、中世の遺構を多く確認することができました。

○これまで南谷や北谷では発掘調査が行われ、坊院や石敷道路など多くの遺構が確認されてきました。しかし、旧境内の西側においては試掘調査などによって部分的に遺構や遺物が確認されるに留まっていた。今回の調査によって坊院が旧境内の南西側にまで広がっていることだけでなく、土塀などを確認したことによって、坊院群が計画的に作られていることを実際に確認することができました。



『平泉寺境内絵図』(平泉寺白山神社蔵)



坊院の復元

(地蔵院跡の遺構を復元、吉岡泰英氏原画)



今回の発掘調査地

図版・写真は、勝山市 1994 『よみがえる平泉寺から中世宗教都市の発掘〜』を引用しました。